

## 第7回木のグランドフェアに寄せて

林産試験場では、日ごろから、一般市民の木材への関心を高めることによって、木材の需要拡大を図るため、様々な普及活動を行っています。中でも7回目を数えた「木のグランドフェア」は最大のイベントです。これは北海道立林産試験場と社団法人北海道林産技術普及協会の共催により行うもので、今年度は7月25日(土)～8月16日(日)に開催しました。この催しは大きく分けて以下の五つからなっています。

### ウッドサマーフェスティバル

林産試験場の構内を一般に開放して行うお祭りです。木っ端市、どんころ販売、場内公開、木工教室、アート彫刻板教室などを行いました。また、旭川道有林管理センターの協力により、おが粉絵などを作るコーナーも設けました。

### 大型木製遊具・木のおもちゃ展

北海道で作られた木のおもちゃ、クラフトを展示しました。また、すべり台など子供が実際に遊べる遊具も展示し、子供たちに好評でした。

### 第3回北海道親子日曜大工教室

これはコンクール形式になっています。今年は63組の親子が参加し、カーデンセットやフリーラック、ベンチなどに挑戦し、出来栄を競いました。

### 第6回北海道こども木工作品コンクール

全道の小中学生から応募総数235点の力作が寄せられました。受賞作品については次ページで紹介します。

### 木を暮らしに活かす集い

「木質住宅の構造安定性と居住性」をテーマにした講演会や、木質住宅構法モデル展、木質建材相談室を行いました。

なお、今回のイベントでは北海道教育委員会、旭川営林支局をはじめ、企業、各種団体、報道機関等多くの関係者からご支援、ご協力を頂きました。

林産試験場では、今後も一般の方々が木に対する理解を深めていただけるような様々な活動を行っていきます。



アート彫刻板教室の様子



木製遊具で遊ぶ子供たち



北海道親子日曜大工教室の製作風景

# 第6回北海道こども木工作品コンクール受賞作品を紹介します

木工工作を通して木の温もりに触れることにより、木の良さに対する理解を深めるとともに、創作意欲や制作技術の向上を図ることを目的として始めたこのコンクールも6回を数えました。

このコンクールは、木工工作個人・団体とレリーフ個人の3部門に分かれており、小学生、中学生それぞれから、金賞(1点)、銀賞(2点)、銅賞(3点)、奨励賞(数点)を選出します。

さらに、各部門の小学生、中学生の金賞のうち、どちらかに北海道知事賞として、賞状が授与されます。

審査の基準は、以下の3点です。

木の持ち味や彫刻板の特徴を生かし、自分で新しく考え、作り出した作品であること。

実生活に役立ったり、デザインが優れた作品であること。

木工技術が優秀な作品であること。

木の幹の輪切りや、皮、ドングリなどをうまく組み合わせて、トナカイのユニークな表情を引き出しています。



木工工作部門 個人(小学生) 金賞 北海道知事賞  
「キツネと遊んでいるトナカイ」

阿寒町立布伏内小学校3年 三沢 梢さん

木の枝や、松かさなどを利用して、森の遊園地を作っています。動く観覧車なども配置されており、カラーでお見せできないのが残念なほど、色彩豊かな作品です。



木工工作部門 団体(小学生) 金賞 北海道知事賞  
「みずほ森の小人ランド」

留辺蘂町立瑞穂小学校3~4年

山崎 大樹さん, 黒瀬 ましろさん, 大野 浄人さん,  
高橋 舞衣さん, 山田 めぐみさん

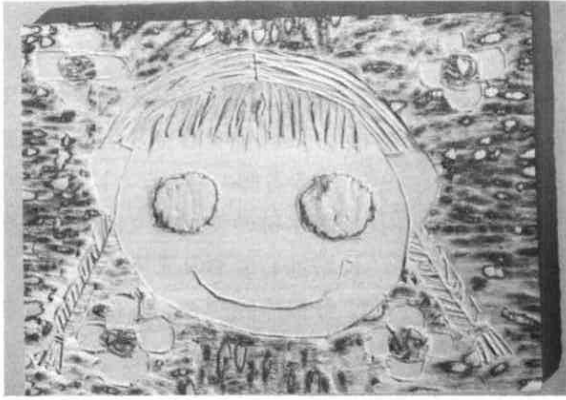
木の枝や、松かさなどを利用して、森の遊園地を作っています。動く観覧車なども配置されており、カラーでお見せできないのが残念なほど、色彩豊かな作品です。



レリーフ部門(中学生) 金賞 北海道知事賞  
「フクロウ」

厚沢部町立鶉中学校3年 菊地 樹見子さん

作者のほのほとした気持ちが  
伝わる、小学生らしい、素直な暖か  
みのある作品です。



**レリーフ部門 (小学生) 金賞**  
**「自分の顔」**  
新冠町立明和小学校5年 栗本 麻斗香さん

デザインが優れていると  
評価された作品です。

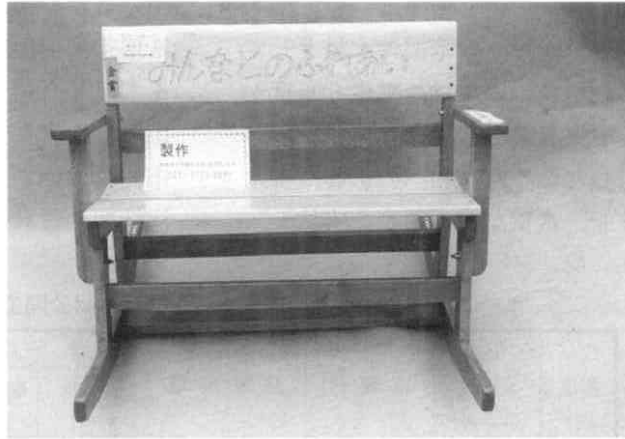


**木工工作部門 個人 (中学生) 金賞**  
**「風車小屋貯金箱」**  
札幌市立稲穂中学校1年 中川 浩輝さん



**表彰式の様子**

機能、デザイン、技術、どれをとっても  
申し分ない作品。  
思わず座ってみたいくなります。



**木工工作部門 団体 (中学生) 金賞**  
**「ロッキグベンチ みんなとのふれあい」**  
札幌市立稲穂中学校2年  
望月 貴文さん, 中村 正隆さん, 伊藤 慎悟さん,  
吹越 洋介さん, 五十嵐 雄さん, 藤田 昌宏さん

最近では木そのものや、木で作ったおもちゃ、クラフトが様々な場面で取り上げられることが多くなったような気がします。木に触れ、木の特徴を理解し、創造力をはばたかせることは、子供たちの情操教育にとって、良い効果をもたらすのではないのでしょうか。平成11年度もコンクールを継続する予定です。優れた作品が多数集まることを期待しています。

(林産試験場 普及課)